

東日本大震災で全壊した 鶯住居保育園の再建について

平成27年3月6日
社会福祉法人 釜石愛育会

— 感謝のことば —

鶉住居保育園は、東日本大震災による津波で建物すべてを流失しましたが、国内はもとより国外からも多くのご支援をいただき再建できました。あの時途方に暮れていた私たちは、皆様からいただいたご厚情を忘れることはありません。

言い尽くせないほどの感謝と日常の大切さを心に刻み、日々の保育に励んでおります。

被災した鶉住居保育園

- 1.場 所 釜石市鶉住居町第16地割39番地2
- 2.構 造 木造平屋建て
- 3.延面積 606.16m²
- 4.竣工日 平成14年3月
- 5.定 員 60名
- 6.併 設 子育て支援センター

被災前の鶉住居保育園



津波後の鵜住居保育園



残っていたものは



何はともあれ、保育再開を・・・

海岸から6kmほど内陸の釜石市の集会所を借り、保育園を再開

- 1.場 所 釜石市栗林町第21地割13番3
- 2.名 称 釜石市立砂子畑集会場(通称 さんあいセンター)
- 3.保育開始 平成23年4月13日
- 4.定 員 55名

狭いけど、自然がいっぱいだよ!



平成23年4月13日
鶉住居保育園
開園

子供：25名
職員：9名



僕たち、私たちは元気だよ



待ちに待った完成です！

- 1.場 所 釜石市鵜住居町第3地割10番地10(海岸から5kmほど内陸)
- 2.構 造 木造平屋建
- 3.延面積 855.46㎡
- 4.竣工日 平成25年5月
- 5.定 員 60名
- 6.併 設 子育て支援センター

正面写真です。



横からです



私たちが学んだこと

1. 子どもの命を守ってこそその保育園
2. 訓練を重ね、その都度検討を行い職員間で対応を共有する
3. 災害想定を変化させた訓練で、対応力を引き上げる
(地震・津波・火災・洪水・防犯)
4. 二次避難所に備蓄品の保管を依頼しておく
5. 非常持ち出し袋の点検補充を定期的実施する
(食料・防寒具・ライト・ラジオ・名簿・主要連絡先・メモ等)
6. 午睡中の災害に備え、上靴を近くの指定場所に置く
7. 災害時の園の対応を保護者に周知、共有しておく(参観日に避難訓練もあり)
8. 数日分の食糧を、玄関の特定場所に置くことを徹底する
9. 長時間の避難に備え、折り紙等手遊び道具を準備しておく
10. 毛布は持ち出しやすいよう、布団と分けておく

再建を目指して

平成23年

- ・4月13日 砂子畑集会所を借り保育再開
- ・6月～10月 建設候補地の調査・検討
- ・10月 候補地に関し行政と懇談
- ・12月 候補地に関し保護者アンケート(3か所提示)
理事会で建設用地決定(アンケート結果を参考)

平成24年

- ・3月 農地転用申請
- ・5月 土地賃貸借契約締結
社会福祉施設等災害復旧費国庫補助金協議書提出
- ・8月 国から移転改築が承認される

- ・9月 社会福祉施設等災害復旧事業に係る査定検査実施(岩手県庁)
査定結果受領
- ・10月 建設設計図書縦覧
農地転用許可となる
- ・11月 理事会で工事請負契約締結が承認(建築・機械設備・電気設備)
- ・12月 工事起工式
社会福祉施設等災害復旧費補助金内示

平成25年

- ・3月 上棟式
- ・5月 竣工
- ・6月 引っ越し
保育開始(6月17日)
落成式典

こんなに広いホールです



終わりに

かつて経験のない未曾有の大震災。一瞬にしてかけがえのないたくさんの尊い命を失い、たくさんの財産を失いました。悪夢なのか現実なのか、しばらくはその境界を彷徨っていたような気がします。

本当にたくさんの尊いものを失いましたが、悪いことだけではありませんでした。とても温かな人の優しさをいただくことができました。

世界中からの優しい思いが私たちに前を向かせて、勇気と希望を与えてくれました。どんなに感謝しても感謝したりませんが、この震災を風化させず、「命の大切さ」、「自然の脅威」、そして「たくさんの人々の善意で保育園ができたこと」を伝え、

次世代を担う子供たちが、命を大切に、明るく生きていけるようにサポートすることがせめてもの恩返しと思っています。

本当にありがとうございます。